

地区の概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41388

1. 地域の概要

西 本 陽 一

1. はじめに
2. 宝立町鵜島
3. 人口と世帯構成
4. おわりに

1. はじめに

金沢大学文化人類学研究室では、2014年度の学部3年生および大学院前期1年生学生を対象とする調査実習を、石川県珠洲市宝立町の7町内（宗玄〔そうげん〕、中鵜島〔なかうしま〕、上稻荷〔かみいなり〕、下稻荷〔しもいなり〕、白山〔しらやま〕、上八幡〔かみはちまん〕、下八幡〔しもはちまん〕）において実施した。本報告書はこの調査実習に参加したメンバーが執筆した報告によって構成されており、当研究室の調査実習報告書としては30冊目とのものとなる¹⁾。調査実習の目的は、フィールドワークを通して学生が地域社会の現状を理解することである。方法としてはこれまでの調査実習と同様に、4月から7月まで調査方法の学習や文献、統計資料の収集、分析などを、予備調査と併行しておこない、8月後半に對象市域に滞在して住民の方々へ集中的に聞き取りを行なう「本調査」を実施し、10月から2月まで各学生が各自の関心にもとづいて報告書を作成してゆくという方法を取った。報告書執筆時には、各執筆者の必要にしたがい適宜補充調査を実施した。

調査対象地域については、当初珠洲市宝立町から集落規模200から300世帯の部分を選ぶ方針で始まった。5月の予備調査で宝立町の区長会長さんや公民館館長さんとお会いした時に、明治期に「鵜島村」を構成していた9町内（上記7町内に馬渡〔まわたり〕と是久〔これひさ〕両町内を加えたもので、2014年5月31日時点では243世帯）がよいのではないかと助言を受けた。しかしその後、本調査を実施してみると、海沿いに広がる7町内に対して馬渡、是久の2町内は山に入った集落で性格を異にしていた。現在ではこの9町内としてのまとまりはあまりないことから、馬渡と是久を除いた比較的まとまりのある7町内を対象地域とすることにした。この点について

宝立公民館長さんらも、明治時代の「鵜島村」「黒峰村」「見付村」という単位については現在の住民は殆ど知らないとおっしゃった。7町内で合計204世帯（2014年5月31日時点）という規模は、参加予定学生10名が4つ前後のグループに分かれて聞き取りに回るのにも適した規模であり、調査対象地域選びについてそれ以上の深い理由はない。

本報告書でも、従来と同様に、2章以下の各章ではそれぞれの執筆者が特に関心を持ったテーマにもとづいて執筆しているため、それらの全体として宝立町7町内についての網羅的、体系的な記述がなされているわけではない。そこでこの第1章では、宝立町7町内について立地、行政上の位置づけ、人口と世帯、生業と生活一般について最小限の記述を行なった上で、第2章以下の個別テーマにしたがって書かれた各論への導入とする。

2. 宝立町鵜島

珠洲市は能登半島の先端部に位置し、宝立、上戸、飯田、若山、直、正院、蛸島、三崎、日置、大谷の10地区から構成される。このうち宝立町は珠洲市の最南部の内浦側地域で、能都町と接し、珠洲市の入口となっている。

宝立町と輪島市町野町の境には、珠洲市最高峰で標高471メートルの宝立山がそびえる。宝立町は、宝立山東側から内浦海岸に至る丘陵地と沖積平野からなる一帯に位置する。宝立町には、北から般若川（2.7km）、鵜飼川（10.7km）、舟橋川（4.2km）の3本の川が流れるが、調査対象の宝立町7町内は鵜飼川の南側、舟橋川を挟んだ海岸地帯になる。

現在の宝立町は明治5（1872）年の大区・小区制により能登国第13区になったが、明治22（1889）年の町村制施行により、鵜島、南黒丸、宗玄を以て鵜島村、柏原、馬渡、大町泥木を以て黒峰村、鵜飼、春日野、金峰寺を以て見付村となった。さらに1908（明治41）年には、鵜島村、黒峰村、見付村の3村が合併して宝立村となり、1940（昭和15）年には宝立村に町制が施行され、宝立町となった。戦後の1954（昭和29）年に珠洲市制施行により飯田町、宝立町、正院町、上戸村、直村、若山村、蛸島村、三崎村、西海村が合併し珠洲市となり、現在は珠洲市宝立町となっている。

宝立町は全部で29町内からなる町である（馬渡、是久、泥ノ木、善野、黒峰、郷、柏原、石尾谷内、助政、金見、宗玄、中鵜島、上稻荷、下稻荷、白山、上八幡、下八幡、朝日、南町、見付、住吉、本町、常磐、上中ノ釜、下中ノ釜、中野、高井、法住寺、加下）。宝立町の面積は54.56km²で、珠洲市の面積247.20km²の22.1%を占める（平成24〔2012〕年10月1日時点、『統計すず』2013:1）。旧小学校の校区として宝立町は、鵜飼、鵜島、柏原（かしはら）、小屋（おや）、馬渡の5校区に分かれる。このうち旧鵜島校区が、本調査実習の対象地域である宗玄、中鵜島、上稻荷、下稻荷、白山、上八幡、下八幡の7町内と一致する単位である。

宝立町ではかつて検地があった際に、当時の地主（「オヤッサマ」）の所有地に、所有者であるオヤッサマの姓（黒丸、鵜島、宗玄）を冠したという。例えば「宝立町宗玄」として住所に現れる「宗玄」もかつてのオヤッサマの一人である。しかし、オヤッサマの所有地には飛び地が多かつたために、現在の町内のまとまりと住所の地名とが一致していない場合がある。例えば、32世帯からなる上稻荷という町内には、「宝立町宗玄」の住所をもつ世帯 19 戸があり、残り 13 世帯は「宝立町南黒丸」の住所をもつ。もちろん現在では行政単位としての町内によるまとまりが宝立町 7 町内の人々の生活の基礎となっているが、住所の地名にはオヤッサマの力が大きかつたかつての生活の名残が残されていると言える。例えば、住民 A さん（宗玄、男性、79 歳）によれば、祭りでデカ曳山を出すか、祭りをその年に開催するかどうかなどは、オヤッサマが決めていたという。つまり、かつてオヤッサマは大きな力をもち、現在は町内で運営されている祭りも、昔はオヤッサマの個人的なパトロネージによるものだった。

交通路としては、宝立町 7 町内の真ん中を石川県道 26 号珠洲穴水線が走り、毎日上下 2 便ずつで金沢と珠洲を結ぶ高速バスが通るのもこの道である。宝立町 7 町内の西側には国道 249 号線が走り、のと里山海道（旧・能登有料道路、2013 年 3 月に無料化し名称変更）と接続して金沢市に到る。鵜飼町の、鵜飼の信号から金峰寺の信号までの国道 249 号線の両側には、宝立小中学校、旧珠洲実業高校、鵜飼駐在所、宝立郵便局、JA すずし宝立支店、宝立公民館などがあり宝立町の中心を形成している。

能登の他地域と同様に、宝立町 7 町内でもかつては海上交通が盛んだった。昭和 27（1952）年まで塩づくりをしていた B さん（上八幡、男性、88 歳）によれば、当時浜で作った塩は船に乗せられ富山県まで運ばれていたという。しかしその後は鉄道交通が発達し、さらに自動車道路交通が主要交通手段となった。かつて宝立町 7 町内には、昭和 39（1964）年に穴水から蛸島まで開通した国鉄能登線が停まる南黒丸駅と鵜島駅があった（さらにその先には能登鵜飼駅があった）。国鉄能登線は昭和 63（1988）年に第三セクターへ移行されてのと鉄道能登線となつたが、それも平成 17（2005）年に廃止となつた。

教育については、明治 8（1875）年に鵜飼小学校、明治 9（1876）年に鵜島および柏原小学校、明治 10（1877）年に馬渡小学校が続けて創立された。戦後の昭和 22（1947）年には全国で新学制が実施され、宝立町には宝立中学校と小屋小学校が創立された。昭和 36（1961）年には鵜飼、鵜島、柏原小学校を統合して宝立小学校が創立され、また馬渡には馬渡中学校が創立された。しかし高度経済成長期の若年層の都市への移動により子供の数が減少し、平成 7（1995）年には馬渡小学校は廃校となり、旧馬渡校区は宝立小学校校区に統合された。さらに、平成 24（2012）年には、宝立小学校と宝立中学校を統合し、宝立小中学校が石川県初の小中一貫教育校として開校した。2014 年度現在、宝立小中学校では小学生 61 名、中学生 38 名の合計 99 名が学んでいる。

高等教育では、昭和 23（1948）年には県立飯田高校が珠洲市野々江町に発足している。鵜飼にあった石川県立珠洲実業高等学校は、総合学科として石川県立飯田高等学校に統合され、2010 年 3 月 31 日をもって閉校した。珠洲実業高校の旧校舎は飯田高校宝立校舎として利用されるとともに、石川県立七尾特別支援学校珠洲分校が共用している。

かつて宝立町には鵜島、柏原、鵜飼などに保育所があったが、鵜島保育所は園児減少のために 12 年ほど前（2002 年頃）に閉所となった（C さん、宗玄、女性、64 歳）。C さんによると、鵜飼保育所は園児 30 人前後を長く続けたが、15 年前から園児が減り、保育所は園児が 20 人を下回ると閉所になるという決まりに従つて閉園したという。

宝立町の生業について聞くと、公民館長さんも区長会長さんも口を揃えて「半農半漁」と答えられた。かつて集落の多くの世帯が農業に携わっていたが、既に 1970 年代からは第二種兼業農家が主流となり、現在では田地所有者の多くが集落の数件の大規模農家に耕作を委託しているという。これらの大規模農家は法人組織であり、国の政策によるものだという。「3 年ほど前」（2011 年頃）には地域で第二回目となる圃場整備が行なわれ、田んぼは 3 反歩から 1 ヘクタールの田んぼになったという。この圃場整備も、大規模農家育成のための国の政策によるものだった。

米作以外の仕事としては、養蚕、製塩、葉タバコ栽培、役所や会社勤めがあり、時代とともに変わってきた。養蚕は明治・大正期には非常に盛んだったが昭和期になると衰退した。昭和 55（1980）年には、珠洲の他の地方では養蚕がなお行われていたが、宝立町にはすでに養蚕農家はなかった（中嶋 1981：177-178）。

宗玄から鵜飼までの浜では江戸時代に盛んに製塩がおこなわれていた。製塩は明治期にも続いたが、明治 38（1905）年に政府が塩の専売制を廃止すると揚浜塩田は次第に整理され、昭和 4（1929）年の大整理の際に宝立の塩田は消滅した（中嶋 1981：23-24）。調査実習中に高齢の住民から聞いた製塩のお話は、戦争中の食塩自給のためにおこなわれたにわか作りの製塩だったと考えられる。

葉タバコ栽培は、昭和 29（1954）年に珠洲市でも栽培が許可され、高収入を得られる産物であるため宝立町でも一時は盛んに栽培された。その後 1980 年代には栽培をやめる農家も多く、2014 年現在では宝立町で葉タバコ栽培に携わっているのは一世帯のみとなっている²⁾。

能登は「能登杜氏」として、越後、南部、丹波とならぶ日本四大杜氏の里として知られる。なかでも宝立町、冬場の農閑期に滋賀や富山の酒蔵へ出稼ぎに行く者が多い³⁾。

宝立町 7 町内には浄土真宗の 3 カ寺があり、真淨寺（しんじょうじ、上稻荷）が浄土真宗本願寺派である一方、覚性寺（かくしょうじ、宗玄）と金相寺（こんそうじ、宗玄）は真宗大谷派に属する。これらの寺はかつては天台宗であったが、後に真宗に改宗したという。

宝立町 7 町内には 5 つの神社があり、それぞれ宗玄、中鵜島、稻荷、白山、八幡の各町内の神社となっている。日吉（ひよし）神社、稻荷（いなり）神社、剣（つるぎ）神社、八幡（やはた）

神社、白山（しらやま）神社である。現在ではいずれの神社にも常住の宮司さんはおらず、能都町の神社の宮司さんが世話をされている。

上記五社がそれぞれ曳山を出す秋祭りが毎年9月15日を中心とした3日間に行なわれる。祝平日にかかわらず開催日9月15日は固定されている。

また昭和33（1958）年に一度は消滅したデカ曳山祭りが2008年から、NPO法人珠洲デカ曳山保存会によって復活され、毎年10月にデカ曳山祭りが行なわれている。明治の頃にはデカ曳山は、南黒丸、鵜島、宗玄の各オヤッサマの資金によって出されていた個人的な性格の強い祭りだった。しかし、現在ではNPO法人が担い手になって珠洲のデカ曳山祭りとして開催している。

宝立町は小さな町内に分かれているため、各町内の運営においては、区長のみがおかれて副区長職がなかつたり、区長が会計を兼ねる町内も多い。またかつて宝立町7町内ではすべての町内が納税組合をもっていたが、近年それを廃止する町内が多く、現在では納税組合を残しているのは1町内に過ぎない。

3. 人口と世帯構成

表1は2014年5月31日現在の宝立町7町内の人団・世帯状況である。7町内はそれぞれ20から36の世帯から構成される、比較的小さな単位である。

7町内のうち6町内において、女性人口が男性人口を上回っている。これは満65歳以上の高齢者のうち、寿命が比較的長い女性が男性より多い傾向にあることを反映している。

表1：宝立町7町内の人団・世帯概要

	町内	男性人口（人）	女性人口（人）	人口（人）	世帯数（戸）	世帯成員数（人）
1	宗玄	46	43	89	33	2.70
2	中鵜島	46	48	94	32	2.94
3	上稻荷	41	51	92	32	2.88
4	下稻荷	23	29	52	25	2.08
5	白山	46	50	96	36	2.67
6	上八幡	28	38	66	26	2.54
7	下八幡	31	34	65	20	3.25
	合計	261	293	554	204	2.72

（平成26年5月31日付住民基本台帳より）

平成24（2014）年5月31日において、7町内の平均世帯成員数は2.72人であり、町内別に見ると、3.25人の下八幡を除いて、全て2人台である。

平成 22 (2010) 年で比べると、宝立町 7 町内の平均世帯成員数は 2.90 人、宝立町全体では 2.64 人であり、日本全体の 2.42 人と比べて多い²。

平成 2 (1990) 年から 22 (2010) 年まで 5 年ごとに集計された日本全体の平均世帯成員数は、2.99 (平成 2 [1990] 年)、2.82 (平成 7 [1995] 年)、2.67 (平成 12 [2000] 年)、2.55 (平成 17 [2005] 年)、2.42 (平成 22 [2010] 年) である。宝立町 7 町内の平均世帯成員数は、少なくとも平成 2 (1990) 年以降はいずれの集計年においても、日本全体のそれを上回っている (表 2)。

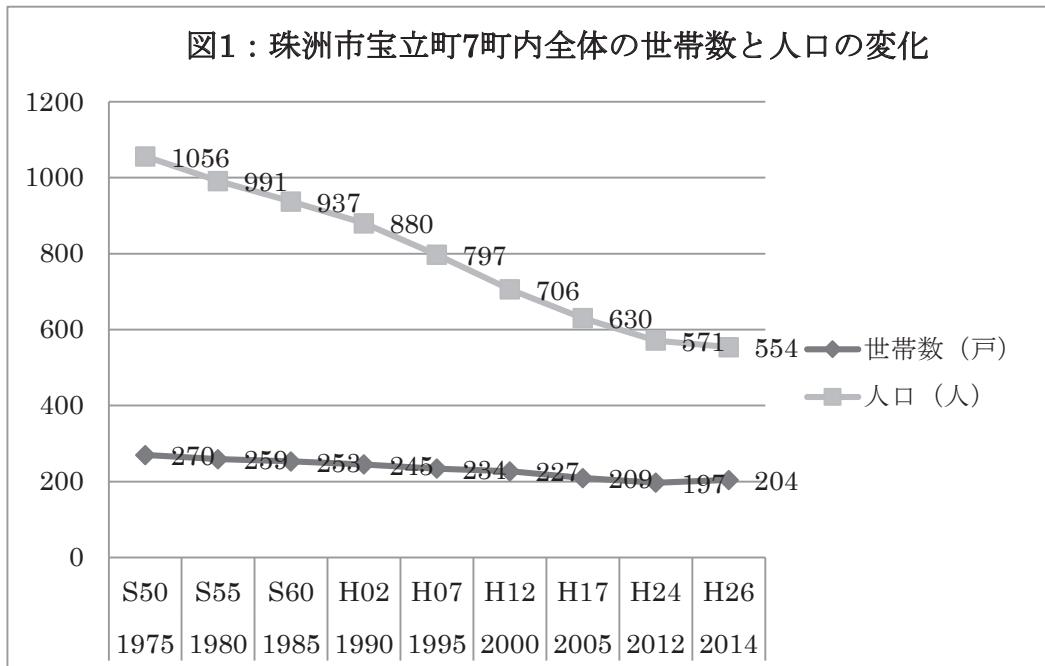
表 2： 珠洲市宝立町 7 町内の世帯数と人口の変化

基準年 町内		1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2012	2014
		S50	S55	S60	H02	H07	H12	H17	H24	H26
宗玄	世帯数 (戸)	43	40	39	35	35	34	30	28	33
	人口 (人)	178	158	154	141	117	103	104	99	89
中鶴島	世帯数 (戸)	40	41	40	41	39	37	36	33	32
	人口 (人)	145	161	141	149	147	133	114	100	94
上稻荷	世帯数 (戸)	43	39	37	37	34	33	32	32	32
	人口 (人)	198	168	158	148	133	113	100	96	92
下稻荷	世帯数 (戸)	35	34	32	33	32	30	28	25	25
	人口 (人)	137	123	117	111	101	78	63	53	52
白山	世帯数 (戸)	44	41	41	40	38	39	34	33	36
	人口 (人)	171	162	151	143	123	111	86	92	96
上八幡	世帯数 (戸)	33	40	40	39	36	33	29	27	26
	人口 (人)	101	122	124	122	108	99	88	73	66
下八幡	世帯数 (戸)	32	24	24	20	20	21	20	19	20
	人口 (人)	126	97	92	66	68	69	75	58	65
合計	世帯数 (戸)	270	259	253	245	234	227	209	197	204
	人口 (人)	1,056	991	937	880	797	706	630	571	554
	世帯成員数 (人)	3.91	3.83	3.70	3.59	3.41	3.11	3.01	2.90	2.72

(出所：1965-2012 年分は各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』(石川県県民文化局) から作成。
2014 年分は 2014 年 5 月 31 日付の住民基本台帳より集計し作成。)

表 2 と図 1 は 1975 年以降の宝立町 7 町内の世帯数および人口の変化を示したものである。7 町内合計で見ると、人口・世帯数とともに年々減少していることが分かるが、人口の減少率に対して、世帯数の減少率は小さい。宝立 7 町内の人口変化については 1975 年以降のデータしかないが、1965 年から 2012 年までのデータがある宝立町および珠洲市の人口変化を見ると (表 3、『統計はず』2013: 10)、いずれの人口も減少を続けており、宝立町 7 町内の人口も同様の変化をたどってきたものと推測される。原因としては、高度経済成長期からの若年人口の都市への移動が主なもの

のであり、それによって世帯数をあまり減らすことなく、人口が減少してきたのだと考えられる。



(出所：出所：1965-2012年分は各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』(石川県県民文化局)から作成。
2014年分は2014年5月31日付の住民基本台帳より集計し作成。)

表3および図2は2014年5月31日における宝立町7町内の年齢別人口構成を示したものである。人口の大きな山は60歳代であり、女性について言えば、80歳代人口も多い。宝立町7町内の満65歳以上の高齢者人口および高齢化率は243人(43.9%)である。基準年が2年程ずれるが、日本全国の高齢化率(満65歳以上人口の割合)は平成22(2010)年において23.0%であり、宝立町7町内はそれよりもずっと高い割合を示している。

男女別に見れば、宝立町7町内の高齢化状況は、男性105人(40.2%)、女性138人(47.1%)であり、寿命が比較的長い女性の高齢者割合が高くなっていることが分かる。

これもまた基準年が2年ほどずれるが、図3は日本の総人口について平成22(2010)年の人口ピラミッドを示している。図2と図3とを比較すると、宝立町7町内においては、「65歳人口の割合[が]世界で最も高い水準」(総務省 2011:16)にある日本全国よりも深刻な高齢化状況にあることが分かる。

表3：宝立町7町内男女別人口構成

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計
0-4	6	2	8
5-9	8	4	12
10-14	5	4	9
15-19	21	6	27
20-24	9	12	21
25-29	6	9	15
30-34	8	8	16
35-39	14	15	29
40-44	9	8	17
45-49	13	14	27
50-54	17	16	33
55-59	16	18	34
60-64	24	39	63
65-69	32	26	58
70-74	21	22	43
75-79	21	23	44
80-84	15	24	39
85-89	12	25	37
90-94	3	17	20
95-99	1	1	2
	261	293	554

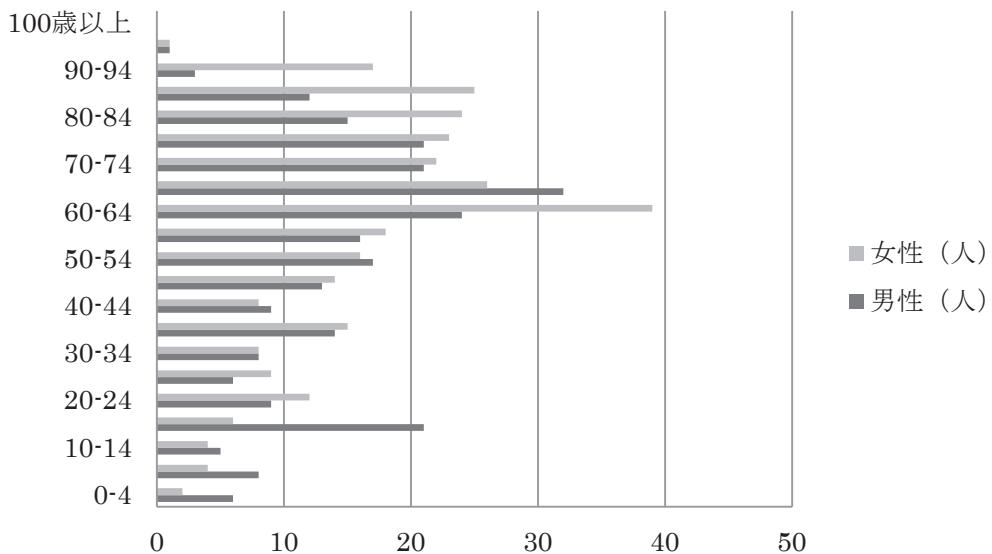
(出所：2014年5月31日付の住民基本台帳より集計し作成)

表4および図4は、宝立町7町内の世帯類型を示したものである。世帯類型別に見ると、単独世帯24%、夫婦世帯23%、核家族世帯20%、直系家族世帯30%、その他2%となっている。3世代以上の成員の同居を典型とする直系家族世帯が最大の割合を占め、日本全体に比べて大きな割合を占めている⁵⁾。

一方で、高齢者のみで生活する世帯（高齢者の単独世帯および高齢者夫婦世帯の合計）は71世帯であり、宝立町7町内の全世帯のうち34.8%という高い割合を占めている。言い換えれば、災害などの際に脆弱性を示す人の割合が非常に高く、日頃からも「見回り」などのケアが必要な人が多いことが分かる。

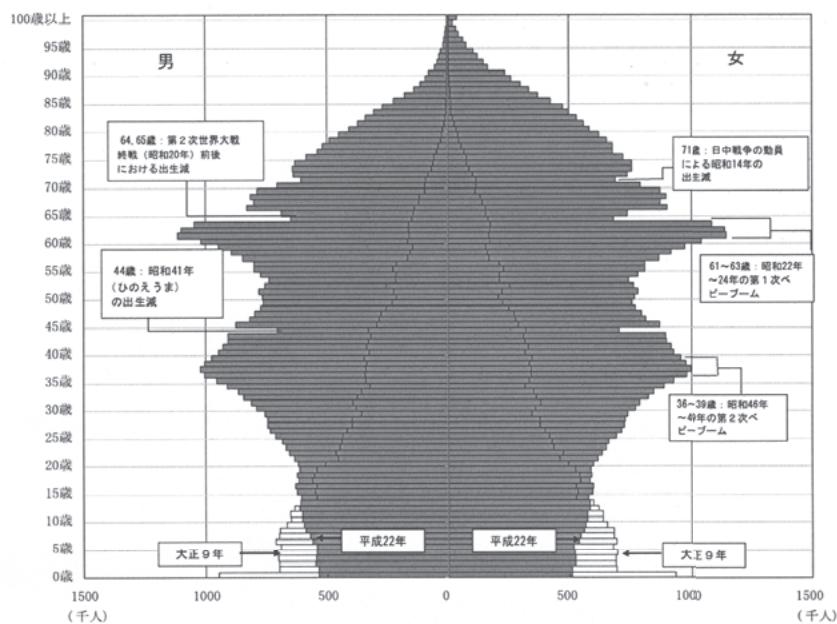
このように諸統計が示すのは高度経済成長期以来つづく若年人口の都市への移動と地域社会の高齢化である。

図2： 宝立町7町内男女別人口構成 (年齢：歳、人口：人)



(出所：2014年5月31日付の住民基本台帳より集計し作成)

図3 我が国の人口ピラミッドの推移

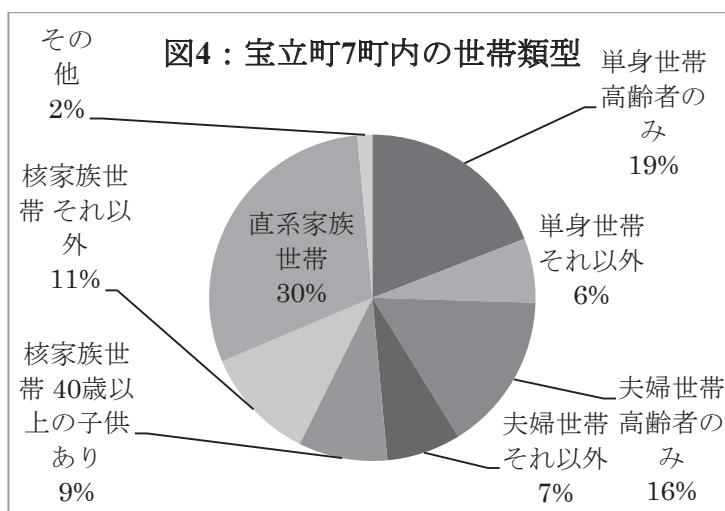


(出所：総務省 2011：2)

表4：宝立町7町内の世帯類型（単位：戸）

		宗玄	中鶴島	上稻荷	下稻荷	白山	上八幡	下八幡	合計
単身世 帯	高齢者 のみ	7	5	4	4	10	5	4	39
	それ以 外	3	2	0	2	3	3	0	13
夫婦世 帯	高齢者 のみ	7	2	9	5	4	2	3	32
	それ以 外	3	3	1	4	1	3	0	15
核家族 世帯	40歳以 上の子 あり	3	1	3	3	4	3	1	18
	それ以 外	3	6	1	2	4	2	5	23
直系家 族世帯		7	13	12	4	10	8	7	61
その他		0	0	2	1	0	0	0	3
合計		33	32	32	25	36	26	20	204

(出所：2014年5月31日付の住民基本台帳より集計し作成)



(出所：2014年5月31日付の住民基本台帳より集計し作成)

表5 珠洲市宝立の世帯数と人口の変化（上段：世帯数、下段：人口）

	1889	1990		1920	1926	1953	1965	1970		1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2012
	M22	M33		T09	S01	S28	S40	S45		S50	S55	S60	H02	H07	H12	H17	H24
鵜島村									馬渡	27	26	26	24	22	21	22	21
										109	110	100	94	82	68	66	58
									是久	31	29	29	29	26	25	21	19
										123	116	113	97	77	71	58	50
									泥ノ木	27	22	18	17	16	17	13	10
										101	69	53	40	40	37	28	24
									善野	54	48	50	75	38	34	26	24
										213	160	129	127	84	71	51	44
									黒峰	5	5	5	5	5	4	4	3
										14	17	22	24	23	17	12	10
									郷	44	46	42	41	41	37	37	34
										166	177	155	133	117	103	93	86
									柏原	51	50	48	48	45	45	50	46
										215	208	184	163	139	127	127	113
									石尾谷内	42	42	42	42	39	38	38	31
										182	180	172	141	120	98	87	86
									助政	26	28	27	27	25	23	24	23
										91	85	83	73	71	60	65	58
									金見	43	44	43	41	41	35	33	31
										163	159	134	115	105	91	77	68
									宗玄	43	40	39	35	35	34	30	28
										178	158	154	141	117	103	104	99
									中鵜島	40	41	40	41	39	37	36	33
										145	161	141	149	147	133	114	100
									上稻荷	43	39	37	37	34	33	32	32
										198	168	158	148	133	113	100	96
									下稻荷	35	34	32	33	32	30	28	25
										137	123	117	111	101	78	63	53
鵜島村			宝立						白山	44	41	41	40	38	39	34	33
										171	162	151	143	123	111	86	92
									上八幡	33	40	40	39	36	33	29	27
										101	122	124	122	108	99	88	73
									下八幡	32	24	24	20	20	21	20	19
										126	97	92	66	68	69	75	58
									朝日	42	62	63	69	66	70	58	57
										115	192	182	184	184	177	165	146
									南町	109	105	95	93	86	89	86	81
										365	351	320	295	253	241	222	190
									見付	53	53	51	57	54	72	55	62
										192	181	176	171	153	176	145	141
									住吉	56	55	51	49	50	47	42	39
										193	179	168	155	140	128	109	94
									本町	53	48	49	49	44	53	44	38
										199	190	182	160	143	141	108	90
									常磐	49	49	48	46	46	43	37	33
										187	177	169	135	140	111	98	79
									上中ノ釜	67	66	62	60	60	60	54	51
										238	248	229	202	184	166	145	128
									下中ノ釜	90	83	90	90	89	86	83	82
										348	345	400	420	383	359	336	306
									中野	37	39	41	43	44	45	116	43
										154	157	169	154	151	141	198	108
									高井	26	26	26	25	24	23	24	23
										109	108	102	95	92	76	70	62
									法住寺、加下	40	37	33	27	26	26	23	18
										154	146	119	76	61	55	48	39
合計	1,055	998	世帯 数計	1,030	1,037	1,231	1,239	1,218	世帯 数計	1,242	1,222	1,192	1,202	1,121	1,120	1,099	966
	5,678	5,826	人口 計	5,914	6,107	6,440	5,465	4,968	人口計	4,687	4,546	4,298	3,934	3,539	3,220	2,938	2,551

(出所：1889、1900、1920、1926、1953年分は『角川日本地名大辞典17 石川県』(1981:810)、1965-2012年分は各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』(石川県県民文化局)から作成。)

4. おわりに

以上、宝立町 7 町内について概観してきた。この地域に暮らす人々の暮らしにかかわる固有のあり方については、以下に続く各章でさらに細かく見てゆくが、そのテーマは学生が興味を持った事柄を優先したため、この地域を語る際に重要な事柄がいくつか抜け落ちていることは述べるまでもない。

短い本調査期間とその後の散発的な補充調査で得られたデータは限られたものであり、お話をうかがう機会のなかつの方も多い。なによりも学生の実習ということで調べる側の未熟さも言うまでもなく、本報告書の記述にも分析にも不正確、不十分な点があるものと自覚している。関係各位の忌憚ないご批判、ご叱正をお願いする次第である。

なお本報告書で示される聞き取り対象者の年齢は、2014 年 4 月 1 日時点の満年齢である。

注

- 1) 既刊の調査実習報告書の一覧は、巻末の「参考文献・参考資料」に掲げておいた。
- 2) 宝立町の葉タバコ栽培の詳細については本書第 5 章を参照されたい。
- 3) 能登杜氏の詳細については本書第 6 章を参照されたい。
- 4) 日本全体については「一般世帯」のみを対象とした数字である。
- 5) 日本全体の統計では一般世帯は「単独世帯」、「核家族世帯」、「その他の世帯」に分類されており、平成 22 [2010] 年におけるそれぞれの割合は 32.4%、56.4%、11.1% である。本章における「直系家族世帯」は「その他の世帯」に含まれていると考えられる。